



東交大同窓会会報

第26号

平成十四年三月八日

東京交通短期大学同窓会

発行責任者 川島一郎

編集責任者 西形伸次

東交大創立五〇周年を祝う

東京交通短期大学は、昭和二十七年三月二十八日に設立認可、同四月に開校し今年で創立五〇周年を迎える。

初代学長に学校法人豊昭学園理事長であった中川正左先生（元鉄道次官）が就任し、学則の第一条に「交通に関する専門の学術を授け、有用なる交通従業員を育成するを以て目的とする」と定め、鉄道事業、自動車事業等を中心に多くの卒業生を排出し活躍している。

第一期の学生募集には、全国各地から約一〇〇名の応募があり、極めて順調にスタートした。国鉄職員や私鉄社員などの勤労学生が殆どで、富士急行からは国内留学として社員を派遣し、幹部職の育成コースとしての利用もされた。

五〇年間には順調な時期ばかりでなく卒業生二〇数人の年もあったが、カリキュラ

ムの見直し、コース制の導入、授業時間帯の変更など時代の変化に合わせた変革を行いつつながら、我が国唯一の交通短大として存続してきた。

最近の一〇数年は募集定員以上の応募が続き、良好な学生を確保し殆ど全員が卒業してきている。現在、少子化現象による小中学校、高等学校の淘汰の時代がきており、短大、専門学校にも時代の波が押し寄せてくることは必至である。

創立五〇周年を迎えた我が東京交通短期大学の更なる発展のため、学生確保と就職の応援に、卒業生諸兄の一層の協力をお願いしたい。



創立五〇周年をお祝いして

同窓会長 川島 一郎



東京交通短期大学が昭和二十七年四月に開校し、今年で創立五〇周年を迎えることを卒業生として皆で心からお祝い申し上げます。

五〇年間、唯一の交通短期大学として年輪を重ねており、募集学生も定員を確保できていることを嬉しく思います。

しかし、私自身、第十三回生として昭和三十九年に入学し同四十一年に卒業しましたが、同窓生は四十八名だけであり、学生数が下降線の時期にありました。昭和四十八年卒業の二〇回生が二〇数人で最低でしたが、その後の大学当局の努力等もあって学生数は多くなってきました。

当時は夕方からの夜間授業であり、既に国鉄職員として勤務していた私は、休みの日と徹夜明けの日だけしか学校に行けず、全ての休みと明け番を使って週に三、四日間だけ学校に行っていました。勤労学生が

主体で毎日出られない学生も多く、教室での学生数が少なくても余り気にしなかったように思います。

学生数が最低であった昭和四十八年に卒業生有志により「東京交通短期大学同窓会」が設立されました。母校を何とかしなければ、学生数も多くしなければ、何より同窓生同志の連携も強くしたいなどの思いを結集して、初代同窓会長を設立発起人のひとりであった第十一回生の新井山勝弘氏にお願いし同窓会を設立しました。

学生数は、同窓生の職場内外での啓蒙活動等の活躍に加え、大学や豊昭学園当局の理解も深まり、徐々に増加してきました。新井山会長が、講師、助教授となり斬新な企画力でカリキュラム等の抜本的な改革を手掛けたことも大きいと思います。

現在の東交大は、午後から始まる変形の授業形態で、募集定員を確保しております。勤労学生でなく若干のアルバイトを行ないながら通っている学生が殆どになっています。世の中の学生数が少なくなる中で、時代に合わせて変化し発展することが大事だと思います。同窓生として、また同窓会として、これからも母校の更なる発展を支援し、期待もしたいと思います。

創立五〇周年を迎える東京交通短期大学の記念事業を同窓生皆で支援して行きましょう。
(株)ジェイアール東日本都市開発勤務)

東京交通短期大学創立五〇周年

事業に伴うご協力をお願いします

本年創立五〇周年を迎える母校東京交通短期大学では、記念事業として五〇周年記念式典とJR東日本松田昌士会長を迎えて講演会を計画、また、学校設備の充実、教育研究の充実、奨学制度特待生制度の実施と共に、「東京交通学会」を設立することになりました。東京交通学会の目的は、「東京交通短期大学の学術研究と教職員の研究活動を促進し、その成果を教育活動に生かす」として、東京交通短期大学の発展を図ることを目的とする」としてあります。これらの記念事業活動を教職員とともに、同窓生の総力を上げて支援したいと思っております。

つきましては、同窓生として「東京交通学会へ賛助会員として入会すること」で協力をしたいと思っております。年会費は三、〇〇〇円(一口)会誌が発行時に送付されます。

入会資料請求先及び振込口座は左記の通りです。振込みの際は氏名と共に卒業年又は卒業回を明記してください。同窓生皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

「入会資料請求先」

〒一七〇〇〇一 東京都豊島区池袋本町二一九一
東京交通短期大学内 東京交通学会事務局宛
「振込口座」

東京三菱銀行池袋支店
(普) 1937770
東京交通学会(代表者 廣岡治哉)

五〇周年を機に飛躍したい

学長 廣岡 治哉



昨年は同時多発テロとアフガニスタンのタリバン勢力への軍事攻撃が起こり、波乱の二十一世紀の

幕開けとなりました。また、日本経済は長年の不況から脱することが出来ず、不良債務、不良債権の罨にはまったまま国際競争の激しくなる中で、構造転換の苦しみを味わっています。しかし、日本の潜在力は決して無くなっていないと思いません。次々と新しい世代が育つて次代の日本を担っていきつてくれるものと信じています。

グローバル化、情報社会化、少子高齢化社会が進む中で、教育も戦後六・三・三制に移行し、新制大学、短大が作り出されて以来の大きな激動、再編期を迎えているように思われます。

このような重要な時期に、東京交通短期大学は創立五〇周年の節目を迎えます。何としても、この節目を新しい飛躍のための

契機にしたいものと、私たちは考えています。同窓生の皆さんも同じ思いでしょう。

先日、有望企業への就職が決まったM君は「職場で頑張って交通短大の名を挙げたいと思っています」と私に言ってくれました。私にとって、これほど嬉しい言葉はありません。私も、「どうぞ頑張ってください」と返しました。

五月十八日には、創立五〇周年の式典と祝賀懇親会を開きたいと思っておりますが、是非同窓生の皆さんに多数参加していただきたいと思っております。私たちは、これを契機に、研究の活発化と教育のグレードアップに努力したいと思っております。

創立五〇周年記念式典のお知らせ

日時 二〇〇二年五月十八日
場所 ホテルメトロポリタン(池袋)式典 十三時～十五時(桜の間)懇談パーティー 十五時三〇分～十七時三〇分(曙の間)

教育内容の充実

理事長 阿部 敏彦



同窓会会員の皆様、また在学中の学生の皆さん、お元気で仕事に勉学に励んでいれることと存じます。

さて、学園も来年は創立七十五年を迎えます。昨年の会報でも述べましたが、学園はこの一〇年間で大きく改革されてまいりました。高校も職業高校から進学校へ、男子校から共学校へと変わり、AO入試、センター入試に挑戦、難関大学、国立大学にも合格するほどに実力をつけてまいりました。

短大もこの少子化の社会現象の中、校名に「交通」と名乗るわが国唯一の短大として、特徴ある教育とその精神を今でも守っていることが社会的に評価され、全国から受験希望者がいるのだと思っております。

その教育の内容ですが、今までどちらかというと座学中心の課目が多く見受けられたような気がいたします。十四年度からは、情報化社会に対応すべく、コンピュータ実

習の充実（本学園には高校施設の中に実習室が三箇所設置されておりあります。これを活用してもらいます）また昨年には短大敷地内に、昭和鉄道と共用ですが運転シミュレータ館が完成いたしました。

このシミュレータ館の外装は、英仏海峡を渡りロンドン〜パリ間を時速三〇〇kmで走る、ユーロスターをイメージした斬新なデザインです。設置された二台のシミュレータは、最近までJR東日本旅客鉄道の中堅乗務員訓練に使用されていた本格的な設備を譲っていただきました。

実物大の運転台からの走行映像はまさに迫力満点であり本物です。二台の車両はEC二〇五系（山手線）とEC四五五系（中距離型）電車です。この二台は運転操作だけでなく、運転手と車掌の連携操作も可能です。体験授業の実践から、さらに多くの知識や技術を体得できることと思います。すでに短大では昨年の二学期の授業から「鉄道運転論」の授業の中に導入されておりあります。同窓生諸君もぜひ機会がありましたら体験してください。

さらに体育実技も若い指導教授に代わり多彩なカリキュラムの編成で希望する学生も増えております。このように教育内容を

さらに充実し、就職指導の強化、四大編入に必要な進学指導などに対応したいと考えております。

今年短大創立五〇周年の節目の年になります。教授会ではどのような形で実施するか検討しております。同窓生の皆さんにもぜひご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。皆さんのお力添えがこれからの短大の存続と発展につながるものと確信しております。

短大の近況について

学長補佐 松岡 弘樹



同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと大慶に存じます。

さて、本年度も短大の近況についてご報告させて頂きます。

一、新・退任教員について
本年度をもって、兼任教員の久保寛二先生、小坂正人先生、福地利司先生、神谷

卓夫先生、齋藤俊彦先生、植村香苗先生、野村宏先生が定年により、さらに藤原栄喜先生、松下正弘先生がご退任されることになりました。各先生方とも長年に渡り短大の発展のために人力を尽くしてこられた方ばかりであり、先生方の長年に渡るご尽力に感謝を申し上げると共に今後のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

又、次年度は新任教員として、石川茂美先生、森住正明先生、吉井恒先生が勤務されることになりました。短大も少子化の影響により、難しい時期に直面しており、各先生方の手腕に期待するものであります。

二、学校行事について
本年度の学校行事に関して、前期は四月に入学式・オリエンテーション、六月に学外レクリエーション（ハタスポーツプラザにてボウリング大会・東武パンケットホールにて懇親会）、七月にオープンキャンパスの各行事を行いました。後期は九月に東交祭、一〇月に交通見学会（船の科学館・東京デイズニースー）、十二月にゼミナール大会を実施し、三月に卒業式を予定しております。

三、時間割について
二〇〇二年度の時間割（案）・特別教養

講座（案）の日程が別表のように決まりました。今年度のカリキュラムでは情報科目群の強化、四時制限の導入などを主眼点としております。例年ご案内しておりますが、公開講座である特別教養講座への同窓会員の皆様のご参加をお待ちいたしております。

最後に、先程も申し上げましたがここ数年短大も少子化・不況等の影響で非常に難しい局面を迎えており、同窓会員の皆様により一層のご協力・ご支援をお願いする次第です。

就職担当者から

就職室長 佐藤 勝治



同窓会員の皆様には、はじめてご挨拶申し上げます。昨年四月から就職担当として就職指導にあたらせていただいております。今年も一〇〇余名が交通短大を巣立ちますが、中には同窓会員皆様の職場の一員として入社す

る卒業生も多々いるかと思えます。その折にはどうか暖かくお迎えいただき、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。さて、ご承知のとおり昨今の求人情勢は非常に厳しい状況にあります。この状況のなか、多数の学生が就職を希望するJR東日本の「鉄道現業員」の採用環境が昨年大きく変化し、他の大手私鉄同様四大卒業（見込）者にも門戸が開放され、競争が一層激化したしました。このような環境の中、学生の奮闘の結果、今年度十七名（昨年度二十一名）の内定者を出すことができました。（支社別数 東京十一名、横浜一名、八王子二名、大宮二名、高崎一名）

入試・広報便り

助教授 沼田 憲治



また、JR東日本以外の鉄道会社内定者も、JR貨物三名をはじめ、営団地下鉄二名、横浜高速鉄道一名、松本電鉄一名の計七名となり、合計二十四名（昨年度二十五名）が鉄道員の仲間入りをする事になりました。さらに、鉄道以外の企業への就職者も公務員、物流、配送など多岐にわたる分野へ合計二十四名（昨年度一〇名）が内定しております。（一月三十一日現在）

就職活動（試験）が年々早まっている中、本学の就職セミナーも従来の一〇月開始から、昨年は七月開始へと時期を早め、さら

に今年入学者からは四月開始を予定し、しっかりとした就職試験準備 意識の高揚を図っていきたくと思っております。

今後とも、さらなる就職率アップのために、皆様からのご助言、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

本年も、入試・広報関係のご報告をいたします。

二年連続で志願者が大幅に減少したことを受けて、今年から短大では入試制度を多少変更しました。主な変更点として、まず、一般入試を三回に分けて実施したことが挙げられます。これにより、推薦入試と合わせて計四回の受験チャンスを提供できることとなります。そのうち、二回は日曜日に試験を実施し、社会人の受験にも配慮しました。次に、推薦入試の時期

平成14年度 特別教養講座カリキュラム(案)

(土曜日) 13:30 ~ 14:50

(敬称略)*は本学卒業生

開講日	講 演 者	テ ー マ
4月13日	村上 清子 国立国会図書館専門資料部参考課主査	図書館の利用法について
4月20日	斉藤 順治 JR東日本(株)東京支社勤務部長	JR東日本の現状と採用の状況
4月27日	関根 恒郎 本学名誉教授	混迷の21世紀初頭 世界の動きを考える
5月11日	久保 敏 日本鉄道電気技術協会顧問	鉄道システムの基本設計
5月25日	大山 茂夫 大学朝日人の会常任幹事	新聞の読み方
6月 1日	荻原 俊夫 東京急行電鉄(株)鉄道事業部 電気部長	東京急行電鉄の鉄軌道業について
6月 8日	高橋 敏夫 拓殖大学副学長	情報の特性と情報社会の二面性
6月15日	森田 喬 法政大学教授	地図に見る交通
6月22日	小池 滋 元東京女子大学教授	トラベル ツーリズム 旅行と観光
6月29日	桜井 寛 鉄道写真家	シベリア鉄道の旅
7月 6日	野尻 俊明 流通経済大学教授	規制改革と物流関係法の改正
7月13日	西野 保行 元首都圏新都市鉄道(株)常務取締役	首都圏における都市鉄道の整備 私の経験から
9月28日	*西形 伸次 西形情報システム代表	ITと鉄道
10月 5日	鈴木 順一 本学名誉教授	小さなエートスから大きなサービスへ 流動化社会における交通経済のサービス化
10月12日	神立 哲男 JR貨物企画部副部長	日本の鉄道貨物輸送の現状について
10月19日	菅 建彦 東日本鉄道文化財団専務理事	世界の中の日本の鉄道
10月26日	*川島 一郎 (株)JR東日本都市開発総務部担当部長	元気なJR東日本グループ会社
11月 2日	佐藤美知男 交通博物館展示課長	鉄道錦絵の世界入門
11月 9日	島田 啓子 帝京平成大学助教授	情報社会における生き方
11月16日	平田 一彦 東武鉄道(株)経営企画室課長	鉄道運賃の設定方式
11月30日	成瀬 敏郎 東京情報大学教授	情報と法 サイバースペースにおける リスク管理
12月 7日	青木 栄一 駿河台大学教授	池袋・新宿・渋谷 鉄道の育てた副都 心
1月18日	- 未定 -	

特別教養講座は公開講座です。特に卒業生のみなさんは無料で聴講できます。

日程は変更される場合もありますので、聴講を希望される方は事前に短大事務局(03-3971-4704)へお問い合わせの上ぜひお越しください。

1 年次				平成14年度 時間割表 (案)				2 年次					
第1時限	第2時限	第3時限	第4時限		第1時限	第2時限	第3時限	第4時限		第1時限	第2時限	第3時限	第4時限
13:30	15:00	16:30	18:00		13:30	15:00	16:30	18:00		13:30	15:00	16:30	18:00
歴史学 (安彦)	簿記論 (佐藤良)	法学 (渡邊)	交通関係 法規 (松岡)	月	観光事業論 (小池)	経営管理論 (安彦)	交通判例分 析ゼミ (松岡)	民事法ゼミ (渡邊) 欧米文化論 ゼミ (沼田)					
海外旅行 実務論 (勝岡)	(前期集中) 旅行業務論 (石川)				サービス産 業論 (小池)		交通論ゼミ (小山)						
基礎ゼミ (廣岡)	統計学 (岡本)	交通経済 学 (上遠野)	環境科学 概論 (中村)	火		(前期) 鉄道経済論 (後期) 航空経済論 (秋葉)	(後期) 都市計画論 (高橋)						
基礎ゼミ (秋葉)	文学 (沼田)	仏語 (沼田)					自動車 交通論 (上遠野)						
観光地理 (市川)	交通概論 (小山)	英語 (小池)	英語 (小池)	水			海運論 (山岸)	都市・地域 交通論ゼミ (秋山)					
	(前期集中) 観光関係法規 (森住)					観光地理研 究ゼミ (市川)	交通政策論 (秋山)						
経営学 (亀川)	情報概論 (井関)	コンピュ ータ実習 (井関)	コンピュ ータ実習 (小野寺)	木	経営法学 (松岡)	国際観光論 (井上浩)	英語 (井上浩)	(前期) ハードウ ェア概論 (水谷)					
保健体育理 論 (坂口)			体育実技 (板東)			基礎経済学 ゼミ (亀川)		(後期) 海外鉄道論 (青木)					
心理学 (兼高)	中国語 (謝黄)	観光学 概論 (井上博)	コンピュ ータ実習 (花山)	金		旅行論 ゼミ (井上博)	(前期) 通信概論 (花山, 小野寺)	交通論ゼミ (石隈)					
(前期集中) 旅行業務論 (森住)						鉄道シス テム工 学 (小山)	物的流通論 (古井)	ホテル事業 論 (石隈)					
特別教養講 座 (松岡,沼田)	経済学 (長谷川)	交通技術論 (樋口,三島, 台木,住田)	自然科学 概論 (佐藤信)	土		鉄道運転論 (安藤)	社会政策研 究ゼミ (長谷川)						
	英語 (小池)												

コンピュータ実習 : 夏休み集中(水谷)

を例年より三週間ほど早め、一〇月に実施した点。入学希望の強い高校生の受験を促し、早めに入学者を確保するのが狙いです。同時に、出願条件から高校の成績の基準値を撤廃し、従来からの「意欲重視」の性格を強めました。現時点(第二回一般入試まで)での結果は次の通りです。

	志願者	合格者
推薦入試	七十七名	七十六名
一般入試	二十六名	二十五名
一般入試	十九名	十七名

これを昨年の数字と比較しますと、推薦入試で志願者が四名増、合格者が七名増、一般入試で志願者が三名減、合格者が四名減となります。一般入試はやや誤算でしたが、合格者の合計が昨年より三名増えており、ひとまず改革の成果は出たと言つていいでしょう。ただし、合格者のうちすでに二名の辞退者が出ておりますので、結局、入学予定者はこれまでのところ二一六名で、まだまだ油断はできません。残る第三回一般入試ではそれほどの数は見込めませんが、なんとか昨年度入学者の一〇六名を上回り、予算定員の一一七名を確保したいと考えています。短大にとって厳しい時代が続きますが、

今後、今後も潜在的入学希望者の掘り起こしや、説明会、ホームページなど広報活動にさらに力を入れていきたいと考えています。また、入試制度の改革もさらに進める予定で、現在、推薦指定校制度や特待生入試制度の導入を検討しているところです。いずれにせよ、これからはますます入学希望者のニーズに合った柔軟な対応が求められてくると思われれます。

次に、広報活動に関して一言。交通短大ホームページができてもう一年半近くが経ちました。お陰様でアクセス数も少しずつ増えてきています。開設当初はなかなかヒットしないと言われましたが、現在ではヤフー

その他主な検索エンジンに登録していますので、この問題はかなり解消されました。また昨年秋季には、同窓会のホームページともリンクし、ますます使いやすくなっています。ただ一方で、相変わらず工事中の画面が多く、情報量の点でもまだまだ乏しいのが実状です。これには様々な技術的な問題があり、現在のスタッフでは大幅な改善は見込めません。今後、HPの全面的な作り替えも視野に入れていかななくてはならないと思います。その際、システム管理者の不在というのが一番のネックなのですが、

とりあえず、学生要覧や行事報告等のオンライン化など、実現の可能性のあるあたりから手をつけていくことになるでしょう。

短大HPにはiモード版もあります。入試関係の問い合わせでも、電子メールで来るものかなりの部分を占めるようになりました。やはり携帯電話から気軽にアクセスしたり、メールが打てることが大きいようです。こうした世のIT化の流れを見るにつけても、これからの広報活動の中心は、従来の雑誌などからインターネットを利用したものにとんどん移行していかざるを得ないでしょう。

最後に、まだご存じない方のために、短大のアドレスを載せておきます。どうぞご利用下さい。忌憚のないご意見をお待ちしております。

インターネットURL

東京交通短期大学公式ホームページ
<http://www.hosho.ac.jp/toukou/>

iモード版

<http://www.hosho.ac.jp/toukou/i/>

E mail

短大代表 kotsu@hosho.ac.jp

入試関係 nyushi-k@hosho.ac.jp

沼田憲治 numata@hosho.ac.jp

会員解放区

私の生涯学習パートナー

第二回生 百村 豊吉



私は東交大同窓会会報第二十四号の中に「私の生涯学習」というテーマで原稿を書かせていただきました。今回は保護司の委嘱を受けてから四年が経過し、罪を犯した者に対して立ち直りの転機を与えるための面接について述べてみたいと思います。

現在担当している者のケースを見ますと、覚醒剤・道路交通法違反（無免許運転による事故）・強盗傷害・窃盗・強制猥褻（強姦）等々で本件の内容はいろいろございます。そこで面接においては態度や発信内容が必要以上に妥協的ではあってはならないし、また、威圧的であってもいけないと思います。

ところが、どうしても一方的な決めつけ

や優柔不断に陥るなど、各人の価値観やパーソナリティ（個性・性格）によって知らず知らずのうちにな適切な面接内容になっている事が少なくありませんので、常に反省の連続であります。要するにもともと他人（ヒト）が他人（ヒト）に対して理解できるとか、理解してやるということは、完全にできるわけのものではないのです。人間というものは、特に弱い人は社会のいろいろなしわ寄せを受けて転落していくのが、とても多いのです。

そのような相手の不安、怒り、焦りなどの感情をあるがままに受け入れ、時に努力し立ち直ろうとしている相手の動きに支持を与えていく事が大切な要素なのです。そのためには、相手との信頼関係を形成することが不可欠の条件となるのです。（保護司と病院内でボランティア活動中）

事務局からのお知らせ

同窓会のホームページを開設しました。
http://www.d1.dion.ne.jp/~nisikita/ta/tict/tict_main.html
 ご覧になったご意見、ご感想を同窓会事務局まで、どしどしお寄せ下さい。

定年後の生きがい

第七回生 鈴木 藤一



今春、半世紀にもおよぶ鉄道一途の生活が定年により終止符を打とうとしております。鉄道が好きでお世話になった道も今では数多くの思い出が走馬灯のように駆け巡っております。多くの方々の長い間のご支援により昨年の春に「勲五等瑞宝章」の栄に浴くしました。ありがとうございました。

定年を間近にし、定年後をどのように過ごしたらよいかを真剣に考えている昨今です。定年後は確実にやってくる「老い」に備えていかななくてはならないわけで「粗大ゴミ」「ぬれ落葉」といったことばがさかんに使われておりますが、そのようにならないために自分自身の「生きがい」とは何かといつことを考えておく必要があると思います。

生きがいのない人生は無意味であり、生きがいを自覚して生きることは、毎日の生活を活性化し、自主的に人生を創造してい

く生活態度を育ててくれることと思います。「生きがい」ということをばを辞書的に解釈すると「生きるに値するだけの価値。生きていることの喜びや幸福感・満足感」とあります。「生きがい」や「希望」「満足感」と言うものは、他人から得られるものではなく自ら努力をし、積極的に求めていかなければ得られないものでしょう。

今後は自分でつくった目標に向かって積極的に生きることとし、このように生きることで精神的にも肉体的にも活力が湧き、生活の充実感が生み出されていくこととなります。

退職後の人生を貫いていくためには、第一に、現実の人生を見つめ、自分のライフ・ステージごとに何をすべきかを考えて心の準備をすること。第二には、退職後の生活でどんなかたちであるにせよ、自分を生かすことのできる社会的な役割について考えておくこと。第三には、現在の健康状態をチェックして、活力を維持できるように、体力づくりや心身の健康管理を心がけることとしましょう。

現代社会の生活上のいろいろな困難を乗り越えて社会生活によりよく適応し人生に「生きがい」や「希望」をもって生きてい

くことの「満足感」を十分に味わいたいと思っております。

今後とも皆様の暖かいご指導をお願い申し上げます。

(地下鉄互助会勤務)

夢と希望も計画的に

第一〇回生 堀 丈夫



東京交通短期大学を昭和三十八年に卒業し四〇年が経とうとしています。国鉄で働きながらの二年

間は、仕事と眠気との戦いで辛い思い出を懐かしくしている今日この頃です。国鉄からジェイアール東日本と私の職業経歴は鉄道一筋ですが生涯現役を目指して元気で社会に役立つ生き方を目標として行きます。

現在日本人全体の平均寿命は八〇歳となりましたが、私の子供の頃は「人生五〇年」と言っていました。実際に平均寿命が五〇歳に達したのは一九四八年です。それが半

世紀で八〇歳時代となったのです。今我が国は、この事も含め大改革の最中です。国民年金の支給年齢を段階的に引き上げているのは、皆様もご承知の通りです。

私事で恐縮ですが「知命」を過ぎると目や手・足の力が弱くなり物忘れが多くなる事が自覚できます。しかし経験からそれをカバーしているのです。力の弱い老人にもいくらかでも仕事は有ります。当然生涯何か役に立ちたいと思いい努力をして行きます。しかし、八〇歳時代では有りますが、全員が長く生きられると思ったら大間違いです。

人生は多分これから男女とも五〇歳を大きな節目とするでしょう。誰もがこの年まで生きられるわけではない現実を認識する事です「自分自身の個人」なのです。

もう一つ、いくら定年が延びても、日本の官庁、自治体、企業の仕事をした場合六〇歳位を限度とすると、正直に言って五〇歳の時にどの位置にいるかが大切な事で一生の生き方が決まってしまうのです。

思春期が一生の人格を決めるように、五〇歳で一生の生活は決定するのです。私の人生の反省から、諸君は早めの人生設計と健康に留意されるよう申し添えます。

(株)ジェイアール東日本住宅開発勤務)

夜学に通った頃

第一〇回生 川崎 勝信



本学に入學したのは昭和三十六年だから、もう四〇年も前のことである。

内から池袋まで行き、駅前から、都電に乗りこむ。或いはバスだったかも知れぬ。学校は停留所のすぐ傍にあつて、入り口を入るとすぐ横が事務室になつていた。小柄で年配の鈴木事務長と、若い福王さんが事務をとつて居られる。彼女はいつも静かな笑顔で、お世話をして下さつた。

授業は一つの教室で行われた。哲学の講義が好きだったこと、休んだときに誰かが代返をしてくれ後日先生がこんな情けないことはするな、と嘆かれた事など思い出す。親しい友人に蓮田清吉君がいた。控え目でやさしく、成績は抜群だった。クリスマスチャンの彼に、ある夜教会のミサに連れて行つてもらつたことがある。後に明治学院大学を卒業し、長く国際キリスト教大学の事務

を執つていた。一度遊びに來いと年賀状で誘つてくれたが、彼が退職するまで一度も実現しなかつた。桜が満開の時に訪問すればよかつたと、今は後悔している。

私も、明治大学の第二文学部に通つたが、

山梨に異動になり、四年になる直前で中途退學した。しかし、夜学に通つた東京での三年間は、若い私に最も影響を与えた時でもあつた。学校に行かせてくれた富士急行と多くの先輩や友人たち、社員寮のおばさんなど、実に多くの方々に支えられていたことを、六〇歳を過ぎた今、しみじみと感じている。

(歌人)



ミレニアム

第三十二回生 泉 淳



今から遡ることちょうど一〇〇年前、明治三十五年に当社は藤沢・片瀬(現・江ノ島)間に電氣鉄道を施設開業しました。物の本に依れば、明治二十八年の京都を皮切りに名古屋大師、小田原大分に続いて我が国六番目の電氣鉄道だそうで、現存する電氣鉄道の路線として大師(京浜急行)に次いで二番目に古い路線です。

その後、現在とはほぼ同じ藤沢〜鎌倉間の開通が明治四十三年の頃で、僅か七km弱を八年もかけてゆつくりと開通しました。當時は約一〇kmの間に四十一箇所もの停留所が設けられ、ゆつくりゆつくりと走つていた事と思われず。時代は明治、大正、昭和、平成と震災や大戦、高度経済成長など激動の時間が流れる中、一〇kmの鉄道を、ゆつくりゆつくり走り続けてきました。よく「継続は力なり」と申しますが、周りに

流されることなく、しかし新しい物を拒むでもなく、ゆっくりと走ってきました。

最近の運輸事業は、どちらかというところ陽産業の部類に入り、各事業者はしのぎを削り公共交通としての事業の継続に躍起です。それでも廃止や整理縮小等で消えてしまふ路線が少なくありません。それは一部事業者だけのことではなく交通事業全般に当てはまる事なのですが、私も今年の一〇〇歳を踏み台に、今度は二〇〇歳を目指してゆっくりと歩み続けたいと思っております。今年是一年を通してささやかながらも記念品販売やイベントが行われます。皆様、どうぞ湘南方面にお越しの節は一〇〇歳の当社をご利用ください。ゆっくりゆっくりとお待ち申し上げます。

(江ノ島電鉄助役)

日本が世界に出来ること

第三十六回生 池田 博俊

私は大田区で、おもに家電製品を作る自動機の組立をしています。この二、三年

製造業工関連は超氷河期の容易ならざる事態が続いています。

そこでいろいろと情報を集めている中であつて電子立国と言われた日本に出来る事として『災害救助活動用ロボット』の開発だと思えました。「産業用ロボットの保有台数一位の我が国は人類の役に立つロボットを作るべきだ」とある教授が言われていますし、世界を震撼させた世界貿易センタービルの倒壊現場で、人体探索ロボットの活躍とその有効性についてジョン・ブリッジ氏から知ることができました。ロボットは危険な場所や狭い所にも入れたり、各種センサーによってその場の人には確認出来ない状況も分かるということです。

しかしながら、世界中探して見ても救助ロボットは発展しておらず、日本政府もいつ発生するか分からない大地震などに関心も無く予算を多く出せないのが現状だ、と消防研究所の方から知ることが出来ました。

石原都知事が、日本経済を良くするために旅客機の開発を提案していました。それ以上に日本には産業用ロボットのノウハウがあります。科学技術が人類を幸福にするためにも我々中小企業や、大田区の町工場の職人の技術を活用すべきだと思います。

想像して下さい、鉄腕アトムやマジンガーゼットが、災害救助の支援をしているところを！！

最後に、私が在学時、自動車部の顧問をされていた現在の松岡副学長や、就職活動の相談に乗っていただいた松下講師に大変お世話に成りましたので、この場を借りてお礼申し上げます。

(株サヤカ勤務)

社会人生活一〇年間をふりかえって

第三十九回生 下山 さつき



短大を卒業と同時に航空自衛隊へ任期制自衛官として入隊しました。山口県防府市で全国から採用

された一〇〇人の同期と三ヶ月間教育を受けました。言つまでもなく寝食を共にし、慣れない土地での生活は私なりに苦労しました。(一〇年たった今ではいい思い出です) 教育期間終了後は、気象職種で昼夜勤務

のスタート。途中、体調を崩し総務職種に変更。私は任期制隊員ですので二年ごと、退職金がでます。(契約更新)しかし常に雇用不安を抱えなければなりません。

組織の中堅としてステップアップするには、厳しい昇任試験をクリアしなければなりません。一般教養と専門知識が要求され、その時学生時代にきちんと勉強しておけばと後悔しました。それから自衛官には職業柄体力が必要です。体力試験もあり本当に涙の出る事ばかりでした。遊びたいのを我慢し、毎日勉強と体育の特訓。世の中はそう甘くない。試験さえ合格すれば誰でも昇任できるものではありません。杵や経験などが考慮されます。私も六年の歳月を費やし、晴れて平成十三年一月に昇任しました。これで五十三歳まで働けます。

昇任した今思うことは、女性が男性社会で働く厳しさを身をもって痛感しました。しかし、公務員は実力主義なので私の血のにじむ努力も実ったのです。なかなか昇任しなかった時は、何度辞めようと思った事か……。でも目標をもってまじめに努力すれば周りの協力、理解も得られます。今の時代、努力、忍耐という言葉は死語になっておりますが。どうか学生の皆様ど

な職業に就いても努力を忘れないで欲しいと思います。給料を貰うという事はとても大変な事です。(航空自衛隊勤務)

乗務員室から見た世間

第四〇回生 雨宮 豊



卒業後、念願の鉄道会社に入り、充実した日々を送っているが、一つだけ嫌なことがある。今に始まったことではないが旅客の鉄道利用のマナーの悪さである。

指定場所以外での喫煙、ポイ捨て、ゴミの置き去り、車内での電話の使用、混雑した車内で足を組む、座席を一人分以上占領する、乗降の多い駅でもドア横に立ち続け動かない人、駆け込み乗車はないときのほうが少なく、手や物をわざと挟んで再開扉を待つ強者も、乗れなければ車掌に罵声を浴びせ、つばをかける、注意すれば「そんなこと言うなら売店でタバコを売るな」

「うるさい」とあきれ次ぎの言葉も出てこない。他にも数え上げればきりがなく、一部の不心得者のために運賃値上げに響いたり、列車が遅れているのに気がつかないのだろうか。

制服を着た私たちの前で平然とマナー違反をする原因は、周りが誰も注意しないのも一つだろう。悪さをしている者がいると、周りの者は必ず制服を着た掛員を見る。そして「君はなぜ注意しないのか」といつて立ち去る。そっくりその言葉をお返ししたい。車内急病人が出て「何やってるんだ。早くしろ」といつて何もしない。私は、掛員に通報したから良い事をしたと思われては困るのだ。誰も注意しないから、平然とマナー違反が繰り返されるのである。

鉄道会社側は、マナー違反をしてもお客様には変わりないという考えを持っていない。また法的権利もないので強く注意は出来ない。下手に注意をすればすぐに苦情となつて、私たち掛員は旅客と会社の板ばさみとなつてしまふ。周りの意識が変わらないと解決は難しい問題ですが、とりあえず頑固ジジイやゴーツクババアになつて悪いことは悪いと正し、見て見ぬふりはやめませんか。(京王電鉄勤務)

夢への切符

ある意味、編入という選択

第四十八回生 和出 正利



私は東交大卒業後、現在流大に編入して教職を取っている。意外に思われるかもしれないが、二年次

編入からでも頑張れば中学校教諭一種免許（社会）と高等学校教諭一種免許（公民・商業）が取得できる。

東交大卒業後卒業生の進路も様々だが、私みたいに進学を志す後輩も増えてほしいと思う。実際、編入したことで教師への第一ステップでもある教育実習を今年予定している。一方で、体育の授業「野外教育」で四泊五日のキャンプを体験したり、インターシップ（職場実習）で二週間保育園にて実習した際「お兄ちゃん先生」として（仮）保育士デビューしちゃったり、案外勉強って楽しいかも と思っただけ。

（苦笑）

一応、流大の執行部（学生会）である卒

業アルバム編集委員会に所属し、なぜか第三十六期編集局局長まで任せられたり……で編入も勉強勉強ってイメージが強かったけど、本当のところはいろいろ経験できたかな？って感じ。後は就職さえ無事に決まれば言うことナシ。（笑）

ともあれ、東交大からは「夢への切符」を貰った、と今でも感謝感激雨嵐っす！まだまだ教師になるには未熟だけど、いつかは教職に就けるよう、日々努力精進を怠ることなく頑張りたい次第です。

（流通経済大学流通情報学部流通情報学科 三年次在学中）

母親の帰りを待つ少年を励ます

第四十八回生 伊藤 圭



十二月三十一日朝八時、いつもなら下り二〇九列車から九〇人ほど降りてくるが今日は下車客ゼロ。

大晦日もなれば通勤客はいない。定刻の

八時二分なのだが早朝の車両故障の影響でしばらく停車すること。乗客二人に説明に行くと二人とも西鹿島で遠鉄に乗り換えるといふ。このままでは二十四分発に乗り継がない。僕は車で送っていくことにした。車の中で「大晦日なのに大変ですね」と声をかけてみた。三〇歳位の女性が「ええ、駅員さんのお仕事も大変ですね」と気を使ってくれた。乗客を送り届け、月末の月計を駅長と仕上げ午前中にはダイヤも回復した。下り列車はほとんど帰省客を乗せてくる。

朝の静けさがうそのようだ。疲れた体にむちを打つように無人駅のガラス拭きに出かけた。豊岡駅でガラスを拭いていると五歳くらいの少年が一人、駅で誰かを待っている。ガラスを拭き終わったが、まだ寒い中一人待っているのを声をかけてみた。「僕寒いだろ、家で待ってたら」「うん、でもお母さんもう一俣まで来たかな」事情があつて父親はいないという。「ああ、もうきつと天浜線に乗ってるさ」母親は仕事で浜松に通っているという。朝七時五十五分発というから二〇九列車だ。としたら今朝僕が話しをした女性だ。「お兄ちゃんのお母さんも看護婦だったから、子供の頃なかなか帰ってこなかったよ。でも君のお母さんはがん



第四十八回生 五明 胤

最近ふと気になること

私は仕事や通勤でほぼ毎日車を運転しています。普通自動車の免許証を取得して早二年。ベテラン

ばって仕事しているからもう少し君もがんばろうな」こんな言葉がその子にとって励ましになるのかわからなかったが、ほっとけなかった。もう時間なので「僕へ帰った。十七時の上りは一〇分停車する。あの子の母親を見つけた。事情を話すと仕事が忙しくてというので「わかっています。ただ子供さんもがんばってました」と優しく答えてあげると少し涙ぐんで「今朝からありがとう」と言ってくれた。

世の中で家庭崩壊とか、道徳を知らない人間が増えてきているようだ、親と子のつながりはいつまで変わらないものだと感じた。(天竜浜名湖鉄道天竜二俣駅営業係)

ドライバークラッシュから見ればまだまだ若葉マークの私ですが、最近車を運転しているとふと気になることがあります。それはマナーの悪いドライバーが増えているのではないかと。以前からマナーの悪いドライバーはいましたが、ここ最近はどうも多いような気がします。つい先日も私が交差点で信号待ちをしているとき、後ろからきた車が反対車線を勢いよく逆走し、左折していったということがありました。そこはあまり見通しのよくない交差点でしたが、幸いにも他の車が走っていないかったため事故にはなりませんでした。こういった乱暴な運転をするドライバーがいると、きちんとマナーを守って安全運転をしているドライバーや歩行者は大変迷惑ですし、第一危険です。道路はみんなが使うところであり、一人で走っているわけではありません。ドライバー同士が気持ちよく走るためにもマナーを守って安全運転をしてもらいたいです。(JR東日本旅客鉄道株式会社勤務)

会計報告書

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

平成13年4月1日

東京交通短期大学 同窓会

収入の部			支出の部		
項目	金額(¥)	適用	項目	金額(¥)	適用
繰越金	883,531		集会費	81,600	幹事会(H12.9.30)
会費	445,000	¥5,000×89名	事務費	0	
臨時会費	75,000		通信費	296,225	会報第24号印刷代,会報第25号発送代,東交祭案内等郵便代
雑収入	5,958	会員からのご寄付,預金利息	渉外費	65,000	会長賞記念品代,卒業式・東交祭ご祝儀他
			会議費	0	幹事打合せ
			雑費	2,362	事務消耗品費
			繰越金	964,302	
収入計	1,409,489		支出計	1,409,489	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

平成13年4月1日 会計監査 堀 丈夫、村越 輝夫

在校生特別寄稿

一年を振り返って

濱田 太一



昨年四月より本校にお世話になって以来、およそ一年の歳月が流れようとしています。今までこれ

ほど短く感じられ、これほど多くの経験を積んだ一年はない気がします。例えば、初めて親元を離れての一人暮らし、親のありがたみや家事の大変さなどを知りました。また、私は西日本出身なので東日本との文化の違いにも驚かされることが多く、方言の通じない経験を幾度もしました。その度に標準語を話そうと勉強しましたが、一向に身に付かずやるせない思いをしました。そもそも私が本校を知ったきっかけは、書店でたまたま初めて買った鉄道雑誌に偶然掲載されていたことです。それも三日後に最終説明会があるという記事を見つけ、

約五時間かけて本校へ行ったのを昨日の事のように覚えていきます。今考えてみると、よくあんな思いつきで行動したなあと思うばかりです。その後本校を受験し現在に至ります。入試時のいろいろなエピソードは紙面の都合上省略させていただきます。

皆さんがこの文章を読んでいるとき、私はもう就職活動の真つ最中でしょう。どんな結果に終わろうとも悔いだけは残したくないです。「何事にも全力投球」これが私のポリシーです。この言葉を胸に秘め夢という名の大空へ向かって羽ばたきたいです。

(一年次在学中)

東交祭

高木 健一



二〇〇一年度東交祭実行委員長が私と決定したとき、正直みんなが楽しめる東交祭に出来るか心配

でしたが六団体しか集まらず、催し物が少なかつたため私の提案により東交祭初のチャレンジとして、実行委員で受付をしながらポップコーンの販売を行うことにしました。参加団体が六団体のため実行委員の人数も少なく、予定していた仕事は順調に進まないこともありましたが、実行委員の努力のおかげで当日までにすべての準備を終えることが出来ました。

二日間東交祭を行いました。天候などの関係もあり、お客さんの入りが少なかつたことが残念でした。しかし、玄関先や教室などで販売していたものはもちろん、今回初の試みであった受付横のポップコーン販売も順調に売っていたので嬉しかったです。

最後に、次期東交祭実行委員も昨年の成功したところをさらに伸ばし、失敗したところは改善していきますので、ご声援のほどをよろしくお願いいたします。

(二年次在学中)

二〇〇一年度東交祭実行委員長が私と決定したとき、正直みんなが楽しめる東交祭に出来るか心配

今年五〇歳を迎える東交大には、昭和四十八年に設立され二十九歳になる同窓会があります。この同窓会が続いているのも、ひとえに同窓生、学校・学園関係者皆様の努力のたまものです。

(編集長)